

www.chikamori.com ● 高知市大川筋一丁目 1-16 tel. 088-822-5231
発行 ● 2019年 8月 25日 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 寺田文彦

新 MRI に入れ替え	中村伸治	3
出張報告	芝太郎	4
リハ病院オープンホスピタル開催	高橋由香利	4
受賞報告	町田彩佳、瀬川朗	5
ふれあい看護体験	久保博美	6
ハビリテーリングセンター Tシャツアート展	西岡由江	6

目次

チーム「ちかもり」連続第 10 回出場



よさこい「ちかもり」実行委員会代表

近森病院 ICU 看護師 日浦 由美子

ちかもり 10 周年！去年踊り子さんに「来年も必ず踊ります！」と宣言してもらったこともあり、今年は募集開始後、100 名を超える踊り子さんが集まりました。本祭が休日だったこともあり、普段参加しづらい医師の参加も多く、色々な職種が集まっ

た年となりました。練習が始まり、楽しい事ばかりではなく、色々な壁に直面しましたが、みんなで問題を乗り越えて、ちかもりらしい団結力のあるチームになったなと感じています。

今年は例年よりも、振り付けが難しくハードでしたが、沿道からの声援が踊り子さんのエネルギーとなり踊り続けることが出来ました。また、「ひろっぱ」を通じて、樽募金の存在を知っている患者さんから「応援し

てるから樽募金に入れて」と募金して下さったこともありました。10 年間の活動が、院内だけでなく院外の方にも広く伝わっているんだと実感しています。樽募金へ協力いただいた職員の皆さん、チーム作りに関係して下さった業者・協賛企業の皆様、すべての方々に心より感謝しています。今年もたくさんの人と人が繋がる素敵なチームとなり、無事に本祭 2 日間を踊りきることが出来ました。

ひうら ゆみこ



近森病院・近森リハビリテーション病院・近森オルソリハビリテーション病院からのお知らせ

9/16 (月・祝) は通常どおり診察します

※9月23日 (月・祝) は休日体制です



しづらさの中にある その人らしさを大切にする

精神科認定看護師

看護部キャリア開発課 看護師長 萩原 博

少子高齢化の進行に伴い、入院患者さんの高齢化は進み、A病棟では97.4パーセントの患者さんが75歳以上の後期高齢者となっています。

入院患者さんの高齢化は認知症を有する患者さんの増加にもつながっています。

認知症高齢者は、個人差はあるものの記憶力や理解力の低下などにより、しばしば「療養のしづらさ」として、当事者を苦しめることがあります。また、それは時として、わたしたち支援する側の「支援のしづらさ」につながることも少なくありません。私は、そういった双方の「しづらさ」に対する支援を、多職種で構成された認知症ケアチームの一員

としておこなっています。

課題は多々ありますが、認知症の特徴が理解され、療養のしづらさのなかで見え隠れする「その人らしさ」に着目したケアが展開されるようチームで力添えできればと思っています。

「その人らしさを大切にする」という支援の基本を胸に、認知症があっても安心して入院生活が送れるようこれからも支援していきたいと思っています。

はぎわら ひろし

9月の歳時記

あさがお

近森病院外来センター
内科看護師 主任 田中 美和



昨年の夏の終わり、自宅の玄関先で思いがけず朝顔の花に遭遇。種を植えた覚えもなく、突然現れたピンクの朝顔に心が弾み、娘と喜び合いました。朝顔の花言葉は色によって違いがあり、ピンクは「安らぎに満ち足りた気分」だそうです。慌ただしい日常の中で、ふと立ち止まることができ、些細な幸せを運んできてくれた朝顔に感謝です。

たなか みわ



● 近森看護学校通信 36 ●

野球部 活動中！

近森病院附属看護学校 3年 泉 祐大

野球部は創部2年目と、まだ出来たばかりです。

現在は3年生5人、2年生2人、1年生2人、マネージャー6人の計15人で活動しています。選手は9人とギリギリですが、みんな仲良く活動しています。

実習などの兼ね合いもあり、なかなか

か揃って練習ができていませんが、9月14日の大会に向けて取り組んでいます。夏休みなどの長期の休みには揃って練習を行い野球部メンバーとの団結も深めて頑張っています。皆さん応援よろしくをお願いします。

いずみ ゆうだい



新 MRI に入れ替え

画像診断部診療放射線技師

技師長 中村 伸治

1998年11月より約20年使用しました本館MRIを新しくすることになりました。5月25日に旧1.5T(テスラ)

MRIを搬出し、3.0Tの装置を入れるため、建屋の改装に取り掛かり、磁気、電波シールドが完成しましたので、7月20日に新しいMRIの搬入を行いました。前日の豪雨ほどではありませんでしたが、曇り空のもと時折小雨が降るなか、心配した装置を濡らすこともなく、搬入できました。

新MRIは磁場強度がこれまでの2倍で、画像はきれいで早く撮れて、新しい機能が満載です。

その中でも検査時の騒音を10分の1程度に抑える機能、息止めをせずにお腹の検査を行える機能、人工関節の周囲でも画像の乱れが少ない機能などがあります。

画像診断部ではどの検査機器でも技師全員が扱えるよう、時に教えあいながら専門性を磨いております。この新MRIを導入することによって、より患者さんに負担の少ない検査を提供できればと思います。

なかむら しんじ



▲前日の磁場下げ、液体ヘリウムの蒸気が出て

▲本館から搬出し、川を渡り管理棟別館へ

▲新MRIが10時にトラックから降ろされる



▲小雨が降り養生をしながら川を渡って本館へ

▲何とか本館に入る。トラックから6時間

▲定位置に移動、水平に収まりました。17時

近森病院附属看護学校
オープンキャンパス2019

18% 3% 7%

開催日時 10:00~ (受付9:30~)

高校生・社会人の方大歓迎です!

体験内容 病室・ホール・実習室を見学

●学校紹介・受験ガイド
 ●看護技術体験・ユニフォーム試着
 ●最新設備をご紹介1キャンパス見学ツアー
 ●在校生と一緒にランチタイム

近森病院附属看護学校
 TEL.088-871-7582
<http://www.takamori-nhs.ac.jp>

第40回クリニカルパス大会
脳血栓回収療法パス

脳血栓回収療法パス

日本人の死因の第3位は脳血管疾患なんやあって、この20年ほどで患者数人口影響劇的よ!

脳梗塞はリハビリ病院に転院が必要やろうか?
 入院してからどんな治療の予定なやろうか?

脳神経外科・西本医師をはじめとした、脳血管疾患治療に精通したメンバーが、より良い医療を提供できるように話し合います。ぜひ一緒に討論しましょう。

2019.9.30
 18:00~19:30
 近森病院 管理棟3階

職員・家族対象

近森病院 4委員会合同企画

第2弾 Autumn Festival 2019

10/19(土) 15時~19時
 10/19(sat) 9時~12時

会場:管理棟3階会議室

4委員会
 病室対策委員会 災害対策委員会
 医療安全委員会 感謝祭委員会

●クア用品紹介
 ●病室対策用品の紹介
 ●ボスター発表
 ●ドキドキ起震体験(10/19)のみの参加(職員家族も参加可)

●おいしい 軽食防止体験
 ●キレイに洗える? 体験しよう! 手洗いチェック
 ●ピデオ土壌
 ●あなたの「確認方法」を比べてみる?
 ~確認手順を再確認~

近森リハビリテーション病院で オープンホスピタル



近森リハビリテーション病院
理学療法士 高橋 由香利



8月3日（土）近森リハビリテーション病院でオープンホスピタルが開催され、70名の参加がありました。

看護技術やリハビリ体験等15ブースがあり、私はエコーを利用して「筋肉の収縮を見てみよう」というテーマの体験ブースを担当しまし

た。エコーを利用して普段みることのない筋収縮をみていただき、単純におどろかれる方もいれば、興味を持ち積極的に筋肉について質問される方もいて、楽しい体験の場になったのではないかと思います。

今後の進路について看護、リハビ

リなど考えている方が多く、理学療法士の仕事について話を行うこともできました。今回のオープンホスピタルが、医療やリハビリ看護、療法士に興味を持っていただけるいい機会になれば良いと思います。

たかはし ゆかり

出張報告

2019年7月5～10日

ハワイ カダバートレーニング

近森病院整形外科 芝 太郎



ました。解剖を勉強しながら展開していき、骨折をつくりインプラントを使用して固定をしたり、セメントインプラントを用いた人工股関節置換術を経験したりと、充実した時間を過ごすことができました。

人生初のハワイをほとんど室内で過ごしたのはすこし残念ですが、観光は次回の楽しみにしておき、今回は整形外科医としての楽しい時間を過ごさせて頂きました。

しば たろう



先日ハワイ大学で開催されたカダバートレーニングに参加させていただきました。カダバートレーニングとはご遺体を使わせていただき手術手技、解剖の勉強をするものです。実際の手術道具をつかったり、普段座学では習得しにくい立体的な解剖を学んだりすることができます。

今回のトレーニングでは主に骨盤の解剖、骨盤骨折のアプローチ、人工股関節置換術の手技を学ばせていただきました。どちらとも普段なかなか執刀医としての経験ができない手技を経験することができ、私にとってはとても有意義な時間を過ごすことが出来ました。

2日間開催された今回のコースでは1日目は座学、2日目は実際にご遺体を使用した実技実習でした。ハワイのカダバーでは上半身と下半身に分けられたご遺体を使用するため、今回のトレーニングではご遺体の下半身のみを使用させていただき

受賞報告

第122回日本消化器内視鏡学会四国支部例会
研修医・専修医優秀演題賞第61回日本呼吸器学会 中国・四国地方会
初期研修医優秀演題賞

内視鏡検査でのフォローの重要性



近森病院消化器内科 町田 彩佳

この度、6月29、30日の両日開催された第122回日本消化器内視鏡学会四国支部例会で「研修医・専修医優秀演題賞」をいただきました。演題は、「全周性びらんを呈したヘルペス食道炎の改善後に表在型多発食道癌を認めた一例」でした。

今回の症例を通して、ひとつの消化管疾患が改善した後も、定期的な内視鏡検査でのフォローが重要であると感じました。

榮枝先生、北岡先生をはじめとする先生方には、発表に向けて熱いご指導を頂きました。今回の受賞の嬉しさを糧に、日々の診療に当たりたいと思います。

まちだ あやか

感謝の限り



初期研修医 瀬川 朗

この度、7月14、15日の両日開催された第61回日本呼吸器学会中国・四国地方会で「初期研修医優秀演題賞」をいただくことができ光栄に思います。演題名は「経気管支肺生検で診断に至った、MTX 関連リンパ増殖性疾患 (MTX-LPD) の一例」で、発表のために、お忙しい中お時間を割いてご指導下さった石田先生をはじめ、ご協力して下さいました皆さまには感謝の限りです。

早いもので、研修が始まり1年と半年近くが経ちました。日々、皆さまにご指導いただき多くの経験をさせていただいております。今後も様々な経験をし、皆さまのお役に立てるよう、医師として成長できるように頑張りますので何卒よろしくお祈いします。 せがわ ほがら

私の趣味

カメラ練習中

近森リハビリテーション病院
3階病棟西 看護師 長崎 美里



写真を撮ろうと思った時、スマートフォンでも綺麗に写真を撮影することができますが、カメラを持ってみたいという憧れから私はミラーレス一眼を購入しました。元々、機械との相性の悪い私にとっては機械の塊をもつことはなかなか勇気のいることでしたが、今のところは大きな



トラブルもなく過ごすことができます。

ミラーレス一眼は一眼レフに比べコンパクトで持ち運びしやすい上に、小さくても様々な写真撮影をすることができます。なんて有能なんだと感動しつつ、どんな機能があるのか、どんな写真が撮れるのかを撮



影しながら勉強中です。

旦那とお出かけした時にはカメラも一緒に連れていき、撮影大会を開催します。桜や紫陽花などの季節の写真を撮影したり、イベントに参加した時の写真を残したり、ふとした瞬間の日常を残したりと写真フォルダはいっぱいです。後で写真を見返して、思い出話をするのも楽しみの1つになっています。

この夏は、花火大会やよさこい祭り、向日葵など高知の夏を残しにカメラと一緒に出かけをしに行こうと思います。

ながさき みさと

未来への歩みを後押し「ふれあい看護体験」

看護部キャリア開発課 課長

兼 看護師長 久保 博美

看護職次世代育成を目的とした高知県看護協会主催「ふれあい看護体

験」にて、7月22日・8月6日の両日合わせて高校生35名を受け入れました。“憧れの”看護ユニフォームを着用し、病棟体験や手術室・救命救急センターの見学、近森病院附属看護学校での、人体模型によるフィジカルアセスメントを体験しました。

感想には、普段は体験できないことを体験できた驚き、喜びとともに、医師をサポート

するイメージだった看護職が「中心になって活動」していることも感じて「看護師に対するイメージが180度変わりました」という発見も語られていました。

また、患者さんから励ましの言葉をもって涙が出たという感想もあり、患者さんにも応援いただきながら、高校生たちの未来への歩みを後押しできたのではないかと考えています。

くぼ ひろみ



高知ハビリテーリングセンター

初開催 Tシャツアート展

高知ハビリテーリングセンター
センター長 西岡 由江



してしまいそうなパブリックアート空間を作ることができました。

にしおか よしえ



訓練や就労に追われる毎日から少し離れて「思いっきり自分らしさを表現してもらおう」それが今回のコンセプトでした。真っ白なTシャツに自分が描きたいものを自由に表現し、洗濯物を干すようにハビリの中庭に並べてみる。真っ青な空や緑の芝生を背景に草風に揺れる120枚のTシャツ。ハビリの利用者や職員にとっては見慣れた中庭が、世界で一つだけの美術館になった瞬間でした。

展示するTシャツは全て手作りのデザイン。藍染に挑戦したり、切り刻んだ斬新なデザイン、大人のサイズから子供サイズと個性豊かで想像力あふれるアート展となりました。展示が終わればTシャツは、草風の香りと共にそれぞれの作者の元へ。人と自然で創る壮大なひらひらの風景は見る人の心を和ませ、居心地の良さについて長居



8月17日(土曜日)★近森オルソリハ病院 夏祭り

近森オルソリハ病院恒例の夏祭りを8月17日に開催しました。



リレー エッセイ

石

近森病院総合心療センター
精神科 森 学美



みなさん、なにかを集めるのは好きですか？私は小さい頃からその時の懐事情や興味にあわせていろんなものを集めてきました。BB弾、絵葉書、フレグランス等。

10年くらい前からは半貴石や貴石を収集しています。形態としては原石から加工されたものまで様々です。なにがいいって、鉱物学は全く詳しくないのですが、地球が何億年もかけて世界各地で形成してきた美しいものを身近においておけるのです。こんな贅沢があるのでしょうか。あと、持ち主のストレスも感じ取ってくれているようです。というエピソードをひとつ。世界三大ヒーリングストーンといわれているスギライトという紫色の石がありますが、以

前から大好きで毎日職場にも持って行ってポケットにしるばせていました。そのときは救急の現場で働きはじめの頃でしたが、幼児のCPAなど心が痛い症例が続いたときにふと気が付くと綺麗な紫色だった石が禍々しい黒紫になっていました。

あれほど好きだったのに触りたくないほどでした。そのときに、自分が思った以上にダメージを受けていたのだな、自分自身のcareをしなければ医療の現場で長く働くのは難しいなということに気づきました。人生では選択と解釈を繰り返していく機会が多いです。なにかを媒介したほうが解釈がうまくいく場合もあります。その意味では石を通していろんな解釈が広がり、面白いです。その上美しい！

機会がありましたらみなさんも綺麗な地球のお宝を手にとってみてください。

もり さとみ



ハッスル研修医

楽しみながら努力する



初期研修医 坂本 礼聡

生まれ育った福岡を飛び出し、今年から高知にやって参りました。独特の方言に困惑することもあります。皆さんとても気さくで、どんどん高知の事を好きになっていっています。

高知といえばよさこい、ということ。今年よさこい祭りにも参加しました。思ったよりも激しい踊りで練習の度にクタクタになってしまいますが、知り合いも増えて練習に行くのが楽しくなってきました。

近森病院の最大の魅力はチーム医療だと思います。管理栄養士、薬剤師など、様々な分野のスペシャリストが病棟に常駐しており、いつでも相談できる恵まれた環境で研修させて頂けてとても勉強になっています。

将来は患者さん一人一人の考え方や生活背景に寄り添いながら、一緒に治療方法を考えていけるような医師になりたいと考えています。毎日が反省の連続ですが、精一杯の努力を続けていきますので、よろしくお願い致します。

さかもと ひろあき

9月献血のお知らせ

*400mL 限定です

日時：9月12日(木)

12:30~17:30

会場：近森病院本館ロビー

(水槽前)

お弁当拝見 75 お母さんのお弁当



学生時代はいつも母がお弁当を作ってくれました。冷凍食品は使わず手作りのおかずばかりで、前日のおでんが入っていたりするおしゃれではないお弁当でした。今となって

近森リハビリテーション病院
3階病棟東
看護師 主任 岩佐 和佳子

は恋しい思い出の味です。

今は私が夏休み中の子どもたちにお弁当を作っています。さすがに全て手作りではありませんが、リクエストを聞きながら作っています。子



どもたちの「おいしかったよ」を楽しみに今日もお弁当を作ります。

いわさ わかこ

ニューフェイス

- ①所属②出身地③最終出身校
④自己アピールなど

職員対象 第96回

チカモリ・シネマクラブ

おめでとう

人の動き 敬称略

2019年7月の診療数 システム管理室

近森会グループ

外来患者数	19,449人
新入院患者数	1,125人
退院患者数	1,077人

近森病院（急性期）

平均在院日数	12.61日
地域医療支援病院紹介率	78.85%
地域医療支援病院逆紹介率	262.14%
救急車搬入件数	611件
うち入院件数	318件
手術件数	452件
うち手術室実施	317件
うち全身麻酔件数	196件

● 2019年7月 県外出張件数 ●
件数 65件 延べ人数 93名

編集室通信

新幹線に乗車するたび、車内アナウンス「今日も新幹線をご利用くださりましてありがとうございます。この電車はのぞみ号東京行きです」に魅了される。声の主は、脇坂京子さんというナレーター。喜びを感じている人、悲しみに暮れる人、さまざまな乗客へ安心を届けられるようアナウンスしているそうだ。声だけで人を惹き付けられるって素晴らしい力だと思う。そしてそんなことが簡単に調べられる時代に驚く。
山リー

臨床栄養部ホープの on と off

食事がうまく摂れなかった経験

扁桃腺肥大で小学校4年のとき入院した。のどが痛くて食事がうまく摂れなかったが、栄養士の先生が親身になってくれたことが印象に残った。

高校時代に進路を考える際、なぜだかその栄養士の先生の記憶が蘇ったのは、日常に欠かせない「食の重要性」を無意識に感じ続けてきたためだろう。県立の高知女子大学がちょうど共学になるタイミングと重なり、「健康栄養学部」を目指すことにした。下調べにホームページを見た段階からすでに同学部渡邊浩幸教授のもとで勉強したいと思ったという周到さには驚く。渡邊教授は企業出身で産官学の連携プロジェクトを率いるマルチ研究者でもある。

が、「そんな先生のもとで勉強できたらいいのかなと、軽い気持ちで…」と。だが、卒業研究では教授の研究テーマの一つでもある高脂肪食が鬱状態に与える影響について調べ、「生化学的な栄養素の働きの初歩、基本概念は勉強できたと思う」と総括。地道に積み上げるのが得意なタイプなのだろう。

周術期に求められる観察眼

内山里美副部長は、「“今風のイケメン”のせいか軽く見えるかもしれないけれど、実は落ち着いていて頼りになるし、後輩の面倒見もよい。8A病棟では、外科の手術前後を含めた周術期の栄養管理という重要な分野に、一所懸命取り組んでいて、安心して任せられる」と、頼り甲斐さえ感じている。

周術期病棟に常駐することで患者さんの変化にいち早く気づける。医師が病棟に戻った際、栄養状態から

みた対応を提案できる。管理栄養士にしか果たせない「患者観察眼」を心がけてもいるのだ。

そうすることで、栄養に関して任せられる部分が増え、責任の重さも増す。同時にやり甲斐も生まれる。与えられた仕事をきちんとこなした上に、プラスアルファの役割を増やしたい。管理栄養士経験3年だが、見合う以上の役割を課す。つまり、ストイックで在りたい!のだ。

今後、患者さんの術後の栄養状態に関するフォローアップ体制も確立したいし、自分が関わるからこそできる部分と、管理栄養士の誰が担当しても変わらずできるフォローの体制を組みたいとも。口から摂るもので身体ができていることを常に見せられているのだとか。

よさこいでのサプライズ

と、仕事の抱負ばかりが口をつくガチガチタイプかといえば、よさこいの土佐の夏にピッタリのエピソードも、むろんある。

よさこいでの「サプライズプロポーズ」、どうやら仲間内では有名な話らしい…。就職した年の夏、よさこい祭りへ初参加した。就活中のWeb情報で、すでに栄養士像の目標でもあった宮澤靖部長(当時)から参加を勧められた。「一年目だし色々経験したら!」。喜び勇んで、初めて練習に参加したときのインストラクターが、のちにプロポーズすることになる女性だった。第一印象は笑顔がステキ。そんな淡い思いも秘めつつ、一所懸命汗を流して数カ月。「本祭を踊ったら、クセになります。二日間、



▲手術の前後を含めた一定期間の集中的な栄養管理に積極的に取り組んでいる
▼よさこい祭りで(撮影:放射線科 宮崎延裕)



踊り終えたときの達成感。仕事でもプライベートでも何か目標を持つことは大事だと思う!」を実践し、本年もまた当然のように、踊った。

出会いから一年後。二度目のよさこい二日目ラストの踊りを終えたあと。地方車の後ろに彼女にきてもらって、スカーゲンの時計を手に、「いっしょに同じ刻を歩んでください」とプロポーズ。「よろしくお願ひします!」。嬉しい承諾だった。

結婚一年が過ぎた。お互い仕事を持つもの同士、家事は一方に負担がかからないように、できることは率先。調理師免許を持つ母親に習ったわけではないそうだが、親子丼やキュウリの和え物など、手早さが密かな自慢でもあるらしい。

患者さんも自分たちも、身体を動かして食事をして元気を回復する。「この基本こそ大事にしたい!」を、常に心がけている。



楽曲制作の「あべや」さんも駆けつけてくれました！

よさこい「ちかもり」10周年をふりかえる



▲初出場 ● 2010年 (290号)



▲第2回目 ● 2011年 (302号)



▲第3回目 ● 2012年 (314号)



▲第4回目 ● 2013年 (326号)



▲第5回目 ● 2014年 (338号)



▲第6回目 ● 2015年 (350号)



▲第7回目 ● 2016年 (362号)



▲第8回目 ● 2017年 (374号)



▲第9回目 ● 2018年 (386号)